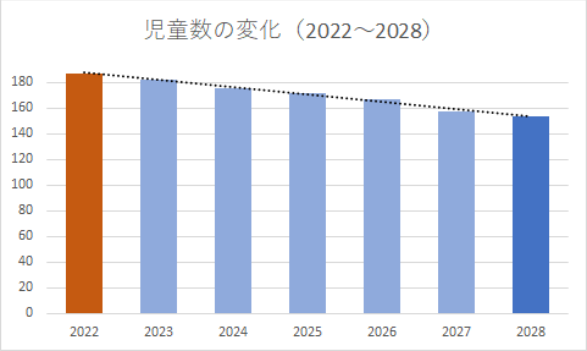
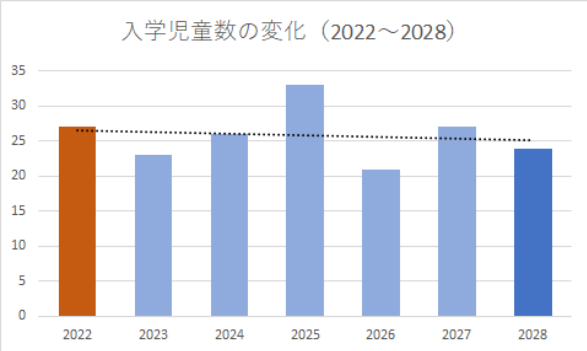
# 校 長 室 だ よ り（No.25）

令和４年 12 月８日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

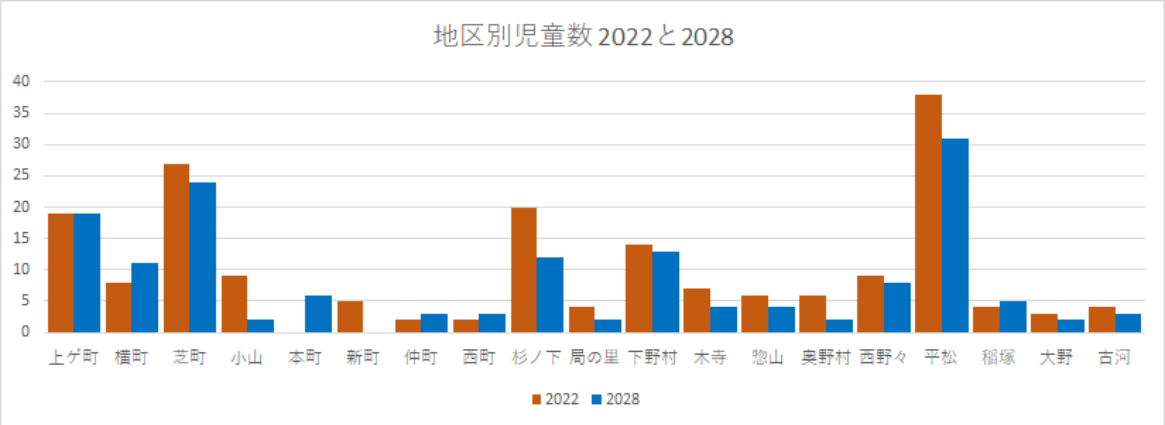
## 少なくなっていく子どもたち

人口減について前回の続きを書かせていただきます。2060 年の丹波市の人口が推計で約 3.5 万人に減少すると予想されていることは、前回書かせていただきました。人口の減少に伴い、市内においても学校の適正規模を考え、適正配置が行われている地域もあります。黒井小学校の校区の子どもたちの数は今後どのように変わっていくのでしょうか。




2022 年度（令和４年度）全校児童は、187 名です。丹波市の年齢別人口統計から考えますと、来年度は 182 名となります。現在生まれている子どもたちで考えて、2028 年には全校児童 154 名と予想されています。2022 年から 2028 年までで、減衰率の平均が 96.8%ですから、このままいきますと 10 年後には、135 名の児童数となると予想されます。黒井小学校でも人口減の影響で緩やかに児童数が下降していくことが予想されます。

次に地区別ではどうでしょうか。今後就学する子どもたちの状況は、地区によって違いがあります。下図のように児童数が０になる地区もでてくる予想です。０にならなくても高学年がいない、低学年がいないなど地区により状況が変わってくると思います。通学班や通学路、通学方法が今後、課題になりそうです。

黒井小学校の校区単位で考えてみましたが、市全体で考えてみますとさらに様々な問題が出てくると思います。子どもたちにとって安全で学びやすい環境とはどんなものなのか、これからの社会に出ていく子どもたちに必要な力を育む環境づくりをどのようにすすめていけばよいのかを考えていく必要を感じました。